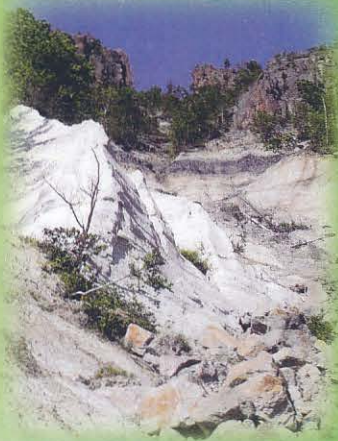



平成21年度  
地域活性化事例集

# 地域資源を活かした 地域の活性化



 財団法人 地域活性化センター

本誌は、宝くじの普及宣伝事業として助成を受け作成されたものです。

# 千葉県 君津市

## 国産ピアノ製造の先駆「松本ピアノ」の遺産継承

～地域の歴史や文化を再認識する市民の取組～



「きみつ夢未来コンサート」で松本ピアノを演奏するピアニスト

### 君津市の概要

千葉県君津市は、人口89,968人、面積が318.83km<sup>2</sup>の都市で、房総半島のほぼ中央部に位置し、北西部は東京湾に面している。君津市の東部は、市原市、大多喜町、鴨川市と接する清澄山系になり、南部は富津市と接する三舟山、鹿野山、高宕山系となっている。両山系の間には小糸川・小櫃川の沖積地が広がり、肥沃な農耕地帯を形成している。また、西部の小糸川下流域には、土地区画整理事業により整備された住宅地が形成され、東京湾に面した区域は、製鉄所を中心とした工業用地となっている。

### 1 文化遺産の保存・活用と「松本ピアノ」への着目

君津市民の通勤・通学圏や生活・経済圏は、高速バス路線等の充実により、近年拡大してきており、東京都・横浜市などに通勤客の増加が見られ、君津市に関心を持つ人が少なくなったことが懸念されていた。

こうしたなかで、君津市独自の魅力を創造するために、市の持つ個性や歴史・文化の固有資源を生かしたまちづくりが求められた。そこで保存・活用すべき地域資源として特に着目されたのが、「スウィート・トーン」と称された音色を持つ「松本ピアノ」である。

君津市は、松本ピアノ・オルガン製作者である

松本新吉氏の生誕地である。松本新吉氏は、日本のピアノ製作初期に活躍した西川虎吉氏や山葉寅楠氏と並ぶ国産ピアノ製作の先駆者の一人といわれている。

松本ピアノは、明治26年に松本新吉氏が東京築地で紙巧琴・オルガンの製造を開始したことから始まる。その後、松本ピアノの工場は、東京月島にも建設され、松本新吉氏の故郷である君津市にも八重原工場が建設された。しかし、平成19年3月には、最後に残った八重原工場が閉鎖され、松本ピアノは110年近い歴史に幕を閉じた。現在は、松本新吉氏の孫である新一氏がピアノの修復作業とその技術指導を行っている。

それでは、この松本ピアノが地域資源として着

目されたきっかけは何だったのだろうか。君津市では、平成13年から市内の有志数名が小糸川倶楽部という名称で君津中央公民館のサークル活動を行っていた。この小糸川倶楽部のメンバーは、「時代と共に風化し埋没していく郷土の歴史文化を調べ記録し、保存して後世に伝えていくことが大切」と考え、君津市の文化や歴史を掘り起こし、地域住民に対してそれらに関する情報を発信していた。この小糸川倶楽部と松本ピアノを繋いだ最初のきっかけは、平成18年10月に、小糸川倶楽部の活動の中で松本新吉の調査が行われたことであった。



保存会のメンバー



外算輪小学校への出前授業

小糸川倶楽部の活動の転機となったのは、平成19年3月の松本ピアノの八重原工場の閉鎖である。明治・大正時代から君津市内で国産ピアノを製造していた松本ピアノの工場が閉鎖されることとなり、松本ピアノが地元紙、全国紙及びテレビ報道で大きく取り上げられた。保存されていたピアノやオルガン18台は、松本新一氏から君津市へ寄贈され、地元の周南中学校等の協力により、校舎敷地内にピアノが運びこまれた。そして、同年12月には、小糸川倶楽部のメンバーを中心に松本ピアノ・オルガン保存会（以下「保存会」という。）が設立され、松本ピアノの保存・修復・活用等を目指すことになった。

その後、松本新一氏らによって修復された松本

ピアノが、君津市役所内ロビーコンサート、市の文化イベント「きみつ夢未来コンサート」、青少年育成施設「千葉県立君津亀山少年自然の家」で活用され、このことが地元紙で「地域再発見」の一環で取り上げられた。こうして君津市の貴重な文化遺産の一つとして松本ピアノの認知度が高まることになった。このことは、君津市の多くの文化遺産を改めて市民共有のかけがえのない財産としてとらえる機会にもなった。

## 2 文化のあるまちづくりの取組内容

### (1) 文化のあるまちづくりへの支援

君津市は、平成20年度から平成24年度までの五ヶ年計画として、第3次まちづくり計画を策定した。この計画においては、多くの文化遺産を市民共有のかけがえのない財産としてとらえ、小中学校の郷土学習や社会教育の教材、文化の薫り高いまちづくりや観光の資源として適切な保存・活用を図る必要があるとされている。また、市民の郷土に対する誇りと愛着を強め、活力あるまちづくりに結び付けていくこととされている。

君津市は、この第3次まちづくり計画を受けて、文化のあるまちづくりを推進する取組を行うこととなった。このため、平成20年度からは、「文化のまちづくり市税1%支援事業」（以下「1%事



生涯学習交流センターでのパネル展示会



修復中の松本ピアノ

自然

町並み・景観

文化財

文化・芸術

施設

特産品・グルメ

イベント

体験交流

人

業」という。)を実施することとなった。この事業は、市税の1%を充てて、市民団体等が行う地域の活性化や特色のあるまちづくりに役立つ事業を支援するものである。

松本ピアノを保存・修復・PR・活用し、君津市のふるさと創生・文化遺産の保存を図ることを目的とした保存会の活動は、市の推進するこうしたまちづくりの施策と方向が一致し、1%事業の採択を受けた。こうして保存会は、行政機関による経済的支援によって、松本ピアノの保存のためのより本格的な取組を行うことができるようになった。

### (2) 松本ピアノの保存・活用の取組

松本ピアノの保存・活用を図る保存会の取組は、資料班と修復班の2つに分かれて行われている。資料班は、松本ピアノに関する文書等の資料を保存・整理している。また、修復班は、会員がボランティアで週2回、地元中学校の敷地内の「松本ピアノ工房」に集まり、松本新一氏の修復作業をサポートしている。保存会の活動には、月1回の全体会合のほか、工房見学やパネル展示会、松本ピアノを活用したミニコンサート等の取組がある。平成20年6月に、君津市役所内のロビーでミニコンサートが開催された際には、君津市長・議長をはじめ、市役所を訪れる一般市民に対し、松本ピアノのPRが行われた。

こうした保存会の活動への行政機関のサポートは、1%事業による経済的支援だけではない。中学校の敷地内において工房や展示室が利用できるよう対応したり、周南中学校の生徒が松本ピアノの修復作業を行う選択技術の授業ができるようにしたりするなどの協力も行われている。

## 3 事業の成果

以上のような事業の成果はどのようになっているだろうか。コンサート活動、パネル展示の取組

及び行政機関の協力によって、少しずつではあるが松本ピアノが周知され、松本ピアノの保存や展示を望む声が増えてきたという。これらは、保存会の活動が着実に浸透してきていることを表す事実といえるだろう。

平成21年12月には、君津市の主催する「第2回きみつ夢未来コンサート」が開催され、前回の来客数905人を超える986人の来客があった。保存会は、このコンサートの冒頭に、特別企画として松本ピアノの特別演奏が行われるよう賛助協力した。このように保存会は、君津市と協働し、君津市の地域資源である松本ピアノを多くの市民等に対して周知している。

## 4 今後の展望

今後の事業の展望はどのようになっているだろう



市役所ロビーコンサート会場



中学生に技術指導する松本氏

■事業名：文化のまちづくり市税1%支援事業

■事業開始年度：平成20年度

#### — 連絡先

企画財政部総合企画課 協働推進室  
TEL 0439-56-1565 FAX 0439-56-1628

■事業主体：松本ピアノ・オルガン保存会

参考 松本ピアノ・オルガン保存会

URL <http://blogs.yahoo.co.jp/ryuuousaijin/folder/147850.html>



うか。問題となるのは、松本ピアノの保管スペースに余裕がないことや、松本ピアノを修復する技術の継承者がいないことである。このため、保存会は、将来、松本ピアノも含めた君津市全体の文化や歴史を集約して展示する博物館のような場所が設けられ、松本ピアノが展示され、演奏されることを目指している。

今後保存会は、君津市の地域資源「松本ピアノ」によって地域が活性化するように、行政機関と協働しながら、松本ピアノを一層PRすることにより、君津市の文化遺産を多くの市民に見直してもらえるような取組を模索している。

## ■ 松本ピアノ・オルガン保存会のメンバーのお話



九島行正会長、資料班の河井衣子さん

### ●活動をするうえで苦労したところは。

ピアノを修復する技術を持っていないので、最初は松本新一さんのサポートをすることも大変だった。また、保存会に新しい会員がなかなか集まらないことも苦労している。

### ●保存会の将来的な目標は何でしょうか。

ピアノも含めた多くの文化遺産を集め、子ども達や100



元岡陸視事務局長

年後のために、しっかり保存していく博物館や資料館などの施設があれば一番良い。松本3代のピアノを修復して、コンサートができれば良いと思っている。修復したピアノを展示するだけでなく、演奏に使ってもらえる機会を増やしていきたい。

### ●（松本さんへ）今後の修復活動について考えを聞かせてください。

今後、多くの松本ピアノが寄付された場合には、すべてのピアノを修復したいが、場所的にも時間的にも限界がある。少しずつでも修復作業を進めたい。



松本新一さん

## ■ 君津市総合企画課 浦田泉協働推進室長のお話



左より協働推進室 柳井さん、生涯学習課 藤平副主査、浦田協働推進室長

### ●松本ピアノPRによる市民の反応はどうか。

この取組をきっかけにして、自分たちの住む所にこのように素晴らしいものがあると広められるので、地元に対する愛着心や興味は強くなっていると思う。保存会の活動は、良い取組と考えている。

### ●1%事業以外のサポートはどうなっていますか。

現在、博物館のような展示施設はないが、現状の施設で多くの市民が集まる公共の場をコンサート会場で利用できるよう協力するなどしてサポートしていきたい。1%事業も今年で2年目に入り、制度自体は見直す必要もある。従来の行政主導型の施策から市民協働へと行政施策を転換している途中である。当該事業では、地域資源を発掘した後、市民がより地域に興味を持ち、地域が活性化することがコンセプトであると考えている。1%事業が継続される中で、事業の制度自体を見直し、育てながら支援していきたいと考えている。

### ●市としての目標は何ですか。

地域資源を生かした文化のまちづくりについては、第3次まちづくり計画のなかでも取り上げており、文化の形成については市も力をいれていきたい。

## ■ 周南中学校 花井知文校長のお話



花井校長

### ●授業でピアノの修復作業は良い取組みですね。

修理待ちのピアノを教育としても生かせないかと思い、教育委員会と相談しながら、授業として取り入れることができた。松本新一氏も快く講師を引き受けていただいて感謝している。学

校としても、修復・保存場所の提供のみでなく、子どもたちもピアノに触れられるので良いことだと思っている。将来は、子どもの修復したピアノでコンサートができれば良いと思う。